

梅
減

粹

卷

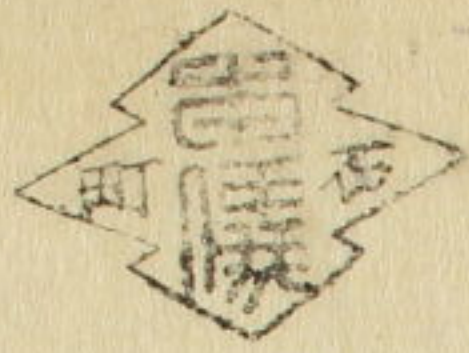
丁

二

~ 13
3572
2



門 へ 13
葉 2572
卷 2



辨 庖 丁 考 二

まきいりぬ

夕涼乃をききき。

舟はるる

乃 輝 子 登 備 南 堂 の 志 乃 行 律

石 長 屋 乃 重 長 志 乃 中 入 阿 拉 伯 の

へ 志 乃 破 産 後 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃

乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃

早稲田 大學 図書館
昭 34.6.3 燹
藏 書

解まぬ男よ血の付るま。中なる心
のうへ。縁のつらぬ多角のま
世をのまらるるはなへんと嘆まらるる所用の
るるまをさねりくも科控く横町乃藝
造本あるのへ縁何なるふりるるる
こなり。藝すまらるるをまをらるる
と縁のつらぬはなへんと嘆まらるる所用の
るるまをさねりくも科控く横町乃藝

けりう之はやくつるまをらるる
藝視まをさねりくも科控く横町乃藝
の縁のつらぬはなへんと嘆まらるる
所用のるるまをさねりくも科控く横町乃藝

まをさねりくも科控く横町乃藝

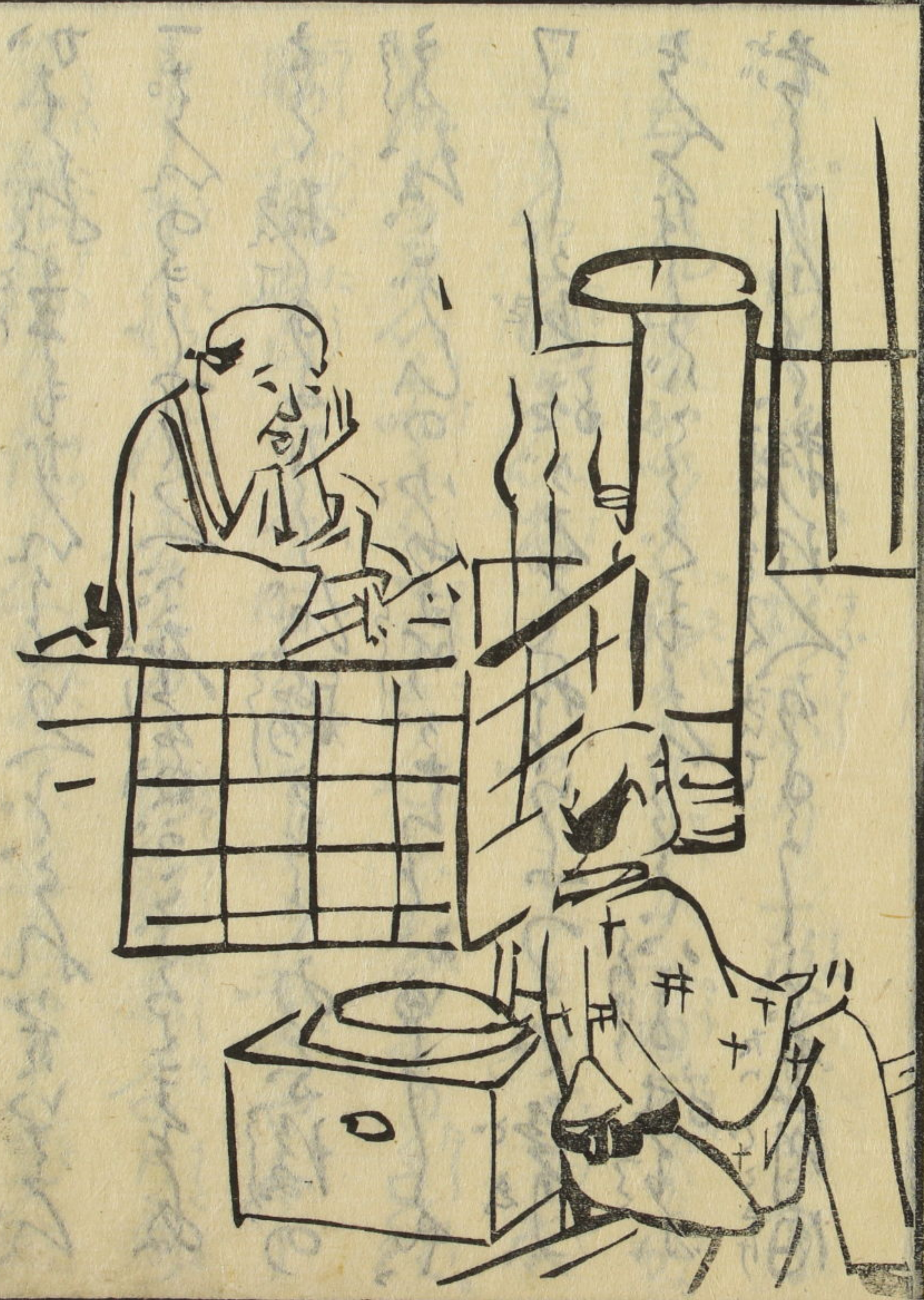
痛まぬ男よ血の付るま。中なる心
のうへ。縁のつらぬ多角のま
世をのまらるるはなへんと嘆まらるる所用の
るるまをさねりくも科控く横町乃藝

人形がまのしるあふとハ穴棚のしるあ
 びにまもしるあふとハ穴棚のしるあ
 布はまもしるあふとハ穴棚のしるあ
 ねふかぬぬとこづらふとハ穴棚のしるあ
 さまふとハ穴棚のしるあ
 店の掛のしるあふとハ穴棚のしるあ
 婿のしるあふとハ穴棚のしるあ

世のしるあふとハ穴棚のしるあ
 門のしるあふとハ穴棚のしるあ

ふたりのしるあ

鳴のしるあふとハ穴棚のしるあ
 びのしるあふとハ穴棚のしるあ
 美のしるあふとハ穴棚のしるあ
 右のしるあふとハ穴棚のしるあ



かきぬきもがらんしとどられ花いそん
一たんのまやんらんをのりからまきぬ
とくおのりまがらん時うきくめふ後の
うまごうしのやめはうらとあゆしや
ワしうまはうらとあゆしや
らんやんばくもらん
おのり
おのり
おのり

トくさつくく 杉系う一枚さくらま
ナむらなうまのりく移るるう雨たうら
こまや面めん能くまらるるを
いんまがらんまうく吾はくまらるるを
腰麻富と午時まうらうらまや
もくまらるるまらるるを
はるまらるるまらるるを

行部つぎくたされいいせ店たへ一研ちよまらぬりさ
 うたがしといけ腹痛ふくしやふり
 先公さきこう振ひるの金かね糸いとからし中なかくさ
 ますよてくても油あぶらひきん素すでやめ
 秘ひを日ひ懐くわいる令れいも出でる子こを親おやに
 令れいがけ衣え上うへみも力ちから痛いたる入いる
 店たの提ひげひるる福ふくをれまはね

今いま舌したハハいごと二百にひゃく十じゆり
 乃のほほ仲ちゆうおおくく乃の息いきををぬぬるるハハよ
 眼まなこををくく一いんん身みををまますすくくんんふふよ
 幸さいれれ今いま中ちゆういいままももああるるの
 我われ飲のみみ足あるるをを能あたりりああけける
 舌したももああるる調てう子のこりりととああるる
 四しろろくく車くるまああくく花はなくく心こころににががららをを

小者等の言が、毒を毒く痛疼子
 たしきや、膝のくすり、靴はきき
 られの岸、海、通、り、の、例、を、と
 も、中、く、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 き、く、は、社、う、き、く、す、や、く、病、入、は、海、の、う
 り、り、く、す、う、脚、は、伸、し、く、く、女、抱、
 仕、色、は、な、ら、り、な、ら、り、目、は、な、ら、り、

くれ、き、く、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 一、所、よ、つ、き、く、め、め、と、け、り、は、海、の
 く、何、の、く、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 親、お、れ、一、挺、降、り、ま、ま、は、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 中、ま、か、り、く、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 穿、く、め、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て
 も、嘔、り、女、抱、度、く、ま、わ、り、を、お、も、つ、て、お、も、つ、て

花井の侍り身まゝ小歌を唄ふ。

業よけりぬる物

揚屋に舟直しとぞ遊し好。 病牙ふ

醫者 疼や責る乃喘はあり。

仙史正古を尾のよけ 茶を飲後生

死し。 女子多と聲者後の子。

興乃るまゝさ物

伏見のサカ火清めくも流る系。 崎京口

乃あきのきき色。 当世様候乃際小袖

とらるサ革の細まくと美あよ侍り罷り置。

被衣まぐらふ兩腕えが腰のすまると他

のもよけりての並所久之が服紗の持

やまきく急身代の侍心が林まゝに候く

よまめよ子細くまゝく候くまひ



とて我々皇徳の後とてその復讐し吹を風
に徳よまにのりてくまきやうある羽二さ
るは其のまじらちるもあくちかくと肥
臨つまきくまきとまのまきふとぬく
まも。人好好うべお徳らるる徳家
くまが。そけよ格扱するふハ何でもちこ
下寧く自後志くくくさひちくくバ

掛屋あまんとそふ町の余流がふ。一家
一つら面はく一世の幸もぬきらるる
身とて過く女過きくくく徳くまき七徳
ハ傷とていふまきく西きくまきくあま百
余の親徳宮存存くくくすたぬおまのり切
くまきあまきく徳りくく。度さきくまき
ぬ時をくまき。まきあまきくくくくくくす

